

各地区の取り組みを持ち寄って研究討議

～西部地区の地域懇談会を開催しました～

12月2日、阿波市の交流防災拠点として市役所横に併設された施設「アエルワ」において、西部地区の4市を対象にした地域懇談会を開催、吉野川市、阿波市、美馬市、三好市の各老人クラブ連合会役員ら約40名が参加しました。

この地域懇談会は、それぞれ地域の特色ある取り組み内容を持ち寄って参考にしてもらうとともに、県老連に対しより多くの会員の方から意見や要望を聞き、運営にいかそうと実施するもので、昨年度から3回目の開催となります。



伊丹県老連会長の挨拶に続き、各4市の取り組み内容を発表いただき、友愛訪問活動や体育大会（運動会）など、共通して取り組まれている活動に加え、吉野川市での子どもたちとの交流や各種ニュースポーツ大会、美馬市の老人大学院、三好市の豊齢式（65歳の方を招いた式典）といった各地区での特徴的な活動が紹介されました。

課題としてあげられたのがやはり会員増強、特に若手の方の加入が少ないことが課題であるとのことでした。昨年度大幅増を達成した美馬市からは、独自パンフレットの作成や地区役員の積極的な呼びかけが効果的であったのではないかとのことでした。

その後、意見交換に入り、友愛訪問活動における民生委員をはじめとする関係機関との連携が重要であること、老人クラブ補助金について各市の状況や事務処理についての情報共有、会員増強では魅力あるクラブづくりが最も重要であり、年代別に楽しめるものも必要ではないかといった意見が出されるなど、活発な討議が展開がされました。

最後に伊丹会長よりこれをきっかけに各市相互の連携のもと、老人クラブの発展に寄与いただきたいとして懇談会を終了しました。